

防犯設備・セキュリティレベルを従来とは異なる 視点でアップグレードできるDEFENDER-X

施設警備において不審者や危険人物を侵入させないことが理想ですが、実際は迷惑行為や犯行等が起きてからの事後対応になります。
そこで不審者を事前検知するDEFENDER-Xを加えることで、コストを抑えつつセキュリティのレベルアップを図ります。

DEFENDER-Xの特徴

- ・既存の防犯カメラ・設備と併用できます
- ・顔認証のような事前のデータ登録不要
- ・ローコストでセキュリティレベルをアップ
(リースならハード込で月々5万円程度)

監視カメラシステム

従来の方法 監視カメラの増設

DEFENDER-X 機械が不審者を検知するため防犯対策として事前行動がとれる。録画映像のチェックを不審者を検知したタイミングまで頻度を増やす。

入退者管理

従来の方法 本人確認方法の変更
(顔認証、指紋認証等)

DEFENDER-X 登録済みの入室可能な人が犯罪や不正を働く危険は無いのか。出入業者や内部犯罪を見抜く可能性があります。

事前にわかると
できることが拡がる 

DEFENDER-X



受付・フロント業務

従来の方法 スタッフ増員

DEFENDER-X 不審者はもちろん興奮状態のクレマー等を事前に把握することで円滑な対応も可能になります。

警備員による入場者の監視

従来の方法 警備員の増員

DEFENDER-X 入場時点で不審者として検知した人に対する対応強化(例.声かけ、持ち物チェック、金属探知機の使用など実施する。

不審者を事前検知する 次世代セキュリティシステム

DEFENDER-X

ディフェンダーXがわかる動画公開中

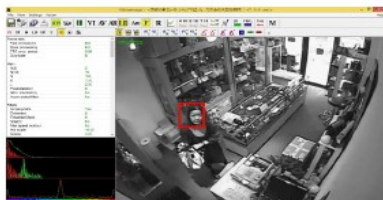


DEFENDER-Xは、犯行に及ぶ前の特有の精神状態をカメラ映像から分析し、不審者を事前に検知する、まったく新しい防犯システムです。事前のデータ登録も必要無く設置後すぐに効果を発揮。

人は肉眼ではわからないレベルで振動しており、その振動は精神状態にリンクしています。それを解析する特許技術(ロシア・ELSYS社)により、真の防犯システムが完成しました。

録画映像の事後解析で犯人特定!?

ディフェンダーXは、不審者の事前検知だけでなく、録画された映像を解析し不審者を検知することも可能です。犯人逮捕に寄与するケースもあります。



監視カメラ映像から精神状態を分析し不審者を事前に検知

2~5秒で検知

振動からストレスや恐怖、攻撃性データを検出すると“不審者と判定”



ソチオリンピックや2015年の伊勢志摩サミット、空港等で実績

ソチオリンピックでは、全ての入場ゲートにディフェンダーXが設置され期間中、2600人を不審者として検知。そのうち92%が危険物所持や入場券のない不正入場者でした。日本でも2015年の伊勢志摩サミットやラグビーの天覧試合の警備などで試験運用されたことがマスメディアでも紹介されています。